



愛隣幼稚園..... 園だより 13. 10月号

あそんでそして仲間になる

幼稚園では毎月、避難訓練を行っています。非常ベルの音やアナウンスは恐怖を覚えるものようで、極度に緊張したり、泣き出してしまう子どももいます。その翌日からは「ようちえん、いかない！」という子も現れるくらいです。たんぼ組のSくんもそんなひとりでした。ところがそのSくんが、先日の訓練の時には怖がることも泣くこともなく、むしろ余裕すら感じる表情で保育室から桜の木の下まで友だちと手を繋いで避難してくることができたのです。大きな変化にちょっとびっくりしましたが、最近のS君の様子を少し知っていたので「そだよね」と納得する出来事でもありました。前日の木曜日のことです。緑テラスを段ボール電車が走っていきます。中にはたんぼ組のSくんとEくん。ふたりは2学期になってとっても仲良しになりました。ところがこの電車、やたらと脱線、横転するのです。ガタゴト進んだかと思うとバタッ、ゴソゴソむっくり起き上がりまたガタゴト進んではバタッ。傍目には何だか危ないことに思えて、職員室から出て様子を窺うことになってしまいました。近づくと・・・ケラケラ、ケラケラ、楽しそうな笑い声が聞こえてきます。2人の表情はお腹の底から湧きあがってくるこらえきれない気持ちを表して、最上級のニコニコ顔です。Sくんもそうですが、私にとってはEくんのこの表情と夢中になってふざけて笑い転げて楽しんでいる姿も、嬉しい大発見でした。2人ともこれまではまだドキドキしていて、楽しそうであっても少し不安げで、あそんでいる時にもどこか気持ちが解放されていない感じがありました。そんな2人が今日は笑い転げて夢中になってあそんでいるのです。そして彼らの夢中はこの電車だけにとどまっていたのはいいのです。お部屋の中には私もあそびたくなってしまふ“もぐら島”が出現していました。

愛隣幼稚園はく自由なあそびを大切にしています。 どうしてくあそびが大切くなのでしょうか？ この？の先のひとつの答えがSくんとEくんのこの姿に現れていると私たちは考えています。誰かが面白いことをみつけました。そのことを同じように面白いと感じる誰かがやってきます。自分が楽しいと思うことを同じように楽しいと共感してくれる誰かがそばにいて、一緒に笑ってくれます。すると、今までの幼稚園はドキドキするところでしたが、そのドキドキが小さくなっていきます。そしてもうその誰かは「仲間」になっています。面白そう、やってみたいという思いは仲間を得たことで、やってみよう！という1歩を踏み出す勇気になります。小さなあそびが大きく広がっていきます。僕が始めたことですから、少々の困難があってもへこたれませんが、もっと面白くしようという気持ちや、1人では駄目でも仲間がいるということが、頑張るエネルギーになります。しかし仲間の考えはいつも自分と同じではありません。それでも一緒に笑ってくれた仲間は、大好きな友だちになっていますから、相手の気持ちもちょっぴりわかるような気がします。お互いになんとか折り合いをつけたいとも思えるようになっていきます。試行錯誤して困難も乗り越えながら夢中になっていると、さらにくあそびくはおもしろくなっていきます。おもしろそうなのでまた、誰かがやってきて、その誰かが仲間になっていくのです。子どもたちひとり一人の体が動き、頭が動き、そして心が動きます。たとえ3歳の子どもたちでも、その生活の中で存分に力を発揮して、満足して過ごすことができるのです。さて、私たちは大人ですからこの時の子どもたちの心の中を想像してみましよう。自分自身が主体的に関り、仲間と一緒に力を合わせて、時には喧嘩もしながら困難を乗り越えた先にある、そう『あの感じ』（それはひとりではないからこそ味わえる格別の心地よさです）を子どもたちは味わっているのではないのでしょうか。その充足感の中で子どもたちは初めて“仲間がいい！”ということを実感していくのだと私は考えています。だからいっぱいあそんでほしい、いろいろな仲間と出会ってほしいと思います。去年の運動会のことを思い出しました。リレーで負けて悔しくて泣いている相手チームの仲間の手を、ぎゅっと握りながら励ましていた大きい組の子どもの姿です。今年の運動会もまた“仲間がいい！”という格別の思いをどの子にも味わってほしいと願っています。